

ちよつとしい話

～ 素直に^{かえり}顧みる ～

20年11月1日

素直^{すなお}とは、広辞苑によれば「飾^けり気が無くありのまま」とあります。自己を表現するのに真^{しん}に自分を伝える事は難しいことです。たぶん裸の自分に着物を着せて、表舞台に立たせてやりたいと願ってしまうからでは無いでしょうか。表現方法には色々あります。書く言葉にも限界があり、各お祖師達も自分が意図した事が伝わりにくい為、執筆には大変苦勞をされた事と思います。

人生訓として私が「すなお」に示されていると感じているは、伊達政宗公^{だてまさむねこう}の遺訓^{いくん}です。遺訓^{じんす}には「仁^{じん}に過ぐれば弱くなる、義^ぎに過ぐれば固くなる、礼^{れい}に過ぐれば諂^{へつらい}となる、智^ちに過ぐれば嘘をつく、信^{しん}に過ぐれば損をする、気長^{きなが}く心^{こころ}穩^{おだ}やかにして万事^{けんやく}儉約^{けんやく}を用ひて金銀^{きんぎん}を備ふべし、儉約^{けんやく}の仕方は不自由^{ふじゆう}を忍ぶにあり此の世の客^{かく}に来たと思へば何の苦もなし、朝夕の食事^{しょくじ}うまからずともほめて食^{くら}ふべし。元来客^{げんきやく}の身なれば好嫌^{すききらい}は申^{もう}されまじ、今日行^{けふ}をおくり子孫^{こそん}兄弟^{けいだい}によく挨拶^{あいさつ}して娑婆^{おんいとま}の御暇^{ごいそ}申すがよし。」とあります。

上記の如く偉人の教訓も多々ありますが、仏教に於いては肉体的、思想的に生活を基盤にした**経典に教義**として示されています。仏教はお釈迦様が六年間修行され新しい宗教として、お開きになった事実は曲げようも御座いません。とは申しましても釈迦もヒンズー教から分かれて立宗独立したのです。しかし現在でも釈迦はヒンズー教のメンバーになっています。日本に於ける各宗派も同じ仏教の分家に相違ありません。現在日本では自分に合った思想を組織的に普及させれば宗教法人として認められます。その結果宗教法人の数は膨大になってしまいました。ここで考えなくていけない事があります。それは分家が本家に対して礼を尽くしているか？と言う事です。今や全く忘れられていませんか。法然、親鸞、道元、日蓮をはじめ比叡山で**教学した僧侶は後に独立開宗しても天台宗の事、そして釈迦牟尼世尊に対して敬意を以って対処する様に信者の面々に伝達してきたであろうか、**自分は些^{いささ}か疑問に思っています。同じ学^{まな}び舎^やでも現在の何々大学卒とは違い師匠と弟子の関係、宗教家としての

のれん
暖簾分けになるからです。例えば、茶道や華道に色々なそうけ宗家、流派があり、其々にいえもと家元が弟子の養成をしているのと似ています。私が言いたいのは、**全て総称は茶道であり、華道であると言う事です。**恐れ多い事ですが各宗派を身体に例えますと、**或る上人は目が一番大事だ、いや私は耳だ、私は口だ、鼻だ、足だ、いや血液だと主張した結果たかさん沢山の宗派が出来てしまったのでよう。私は五体満足にして尚且つなおか天地の恵み、酸素等々の供給なくして人間の生存は望めません。ですから**全て整った形が釈迦の教え仏教だと思える訳です。**宗派を果実に例えますと、その時代時代で自分の好むところ 処てきしゅつを摘出して自分好みの実をならせ名前を付けて、多くの人々が買ってくれる実を作ってきたのではないのでしょうか。今も昔も美味しくて安い物に人々は飛び付くのです。注意すべきはやす廉かろう良かろうから、今や安価な食品を求めすぎた為に残留薬物問題が起きてしまいました。安易に物事を解決しようとするとう失敗します。仏教は哲学倫理ですから目の前もとにある果物を買う訳では無く一概に比較出来ません。話を戻しますが、幸水が売れ、長十郎が姿を消してもそうしょう 総称なしは梨です。**色々な宗派があっても総称は仏教と成ります。**その中で自分の信仰として自由に宗派を選ぶ事が出来る様に成っています。(自由民主党の中に多くの派閥があるのと一緒に派閥は本人の意思で選べます。)しかし、お釈迦様から逸脱する事は出来ません。離脱した時は仏教以外の宗教を創る事になります。**仏教の根本、真髄はいくら宗派が増えようと、お釈迦様の理念に全て修まるはずです。**仏教は哲学倫理の思想ですから善をいつく 慈いまししみ悪を戒めています。人間社会に於ける自然環境の破壊や人的(肉体及び思想)に危害を及ぼす宗教団体は仏教を信仰する団体とは言えません。私たちは恥じる事の無い足跡を残すべきです。**

私達が生活する上で起きる問題に対し「**すなお**」に耳を傾かたむける事で事の真意を把握出来、適確な行動がとれ、あやま過ちが無くなり、失望、失意による病から逃れる事が出来る様になるでしょう。**伊達家九代目仙台藩 62 万石藩主政宗公の遺訓の如く、娑婆は娑婆での心構えをし、人間として生活万事に準備を怠まさむねこうる事なく、安心して暮らす事が即ち安心起行ばんじ、佛様の教えであり、願おこたいでもあります。**信心堅固にして家族、一族の幸せを願えば、やがて我が身の幸せとなって返いて来る事でしょう。一陽来福いちようらいふく

善壽界 善入院油掛地藏尊